
2015 年度 事業報告書

特定非営利活動法人
アントレプレナーシッ
プ開発センター

〒604-0866
京都市中京区西方寺町 160-2
船越メディカルビル 3F
TEL:075-468-8907 FAX:075-468-8908

アントレプレナーシップ開発センターが目指すもの:

アントレプレナーシップ溢れる人材育成と社会の実現

目次

はじめに.....	1
2015 年度 活動報告.....	2
2015 年度 決算報告.....	2
活動を支えてくださった方々.....	2

はじめに

2015 年度は、皆様の応援のもと、お陰様で計画しておりました事業を全て滞りなく実施することができましたので、ここに報告させていただきます。

まず、2004 年から継続事業として行っています高校生国際競技「Global Enterprise Challenge (GEC)」は、全国から 45 校 29 チームの約 200 人がエントリーし、3 月の国内予選で入賞した 3 チームが 6 月の世界大会に出場しました。惜しくも入賞は逃しましたが、開成高等学校が 4 位と健闘し、その後の 24 時間競技「International Science Enterprise Challenge (ISEC)」では、開成高等学校チームが 2 位に入賞し、また、京都市立紫野高等学校のチームは開催地のインドネシアに渡航し、現地の高校生と交流しながら競技参加することができました。

また、2001 年から開催しています仮想企業の見本市「トレードフェア」は、15 回目にして初めて商業施設「ゼスト御池」で実施し、一般の方を対象に、小学生～大学生の 28 チームが展示販売やワークショップ等を行い、商品を売る大変さと遣り甲斐を実感していました。

そして、2014 年に始まりました「日本とインドネシアの若手ソーシャルリーダー育成・交流事業：Gerakan Mari Berbagi(共に分かち合おう)プログラム」では、4 月から社会問題の調査や資金調達などの研修を経て 5 名の日本人学生が、8 月末から約 3 週間、インドネシアの一般家庭で滞在しながら現地の NGO 等で研修し、素晴らしい体験をして帰国しました。そして、今年の 3 月にはインドネシアの研修生 6 名が来日し、夏に研修した学生達の家ホームステイしながら、日本の企業や非営利団体等で 3 週間研修し、最後は涙一杯の別れとなりました。

新しい事業としては、経済産業省の「起業家教育普及促進事業」にて、京都府等と連携し、府内の小・中学校 6 校で京都起業家教育推進事業「ユースチャレンジ」プロジェクトを実施しました。このうち 4 校が文部科学省の平成 28 年度の新規「起業体験推進事業」に採択され、今後、当センターも関わり、発展的に取り組むことになっております。

当センターが、1998 年に起業家教育事業を開始してから、来年には 20 年目になりますが、地道に続けていた活動が、ようやく大学から小学校へと進んで参りました。活動に参加した若者達からは、将来の進学やキャリア選択に影響を受けたと聞いています。法人のミッションとしてきました「社会的課題の解決や社会変革に積極的に取り組む起業家的人材育成」に、地域ぐるみで推進する動きも生まれており、アントレプレナーシップの育成が学校現場でも当たり前になる日も近いと感じています。ぜひ、皆様と一緒にそれを体感できますよう、引き続きご支援・ご指導のほど、よろしく願いいたします。

平成 28 年 5 月

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター
理事長 原田紀久子

1. 事業理解を進めるための調査・研究・情報発信事業

➤ HP、ブログ、Facebook やメールマガジンでの情報発信

随時 HP やブログや Facebook に活動情報や報告を掲載。また、毎月 25 日に約 6,000 人にメールマガジンを配信。

HP アドレス : <http://www.entreplanet.org/>

ブログアドレス : <http://blog.canpan.info/entreplanet/>

Facebook アドレス : <https://www.facebook.com/entreplanet>

2. 実践を後押しするための教材・教育プログラム開発や導入支援事業

➤ 京都起業家教育推進事業「ユースチャレンジ」プロジェクト

京都起業家教育推進事業「ユースチャレンジ」プロジェクトでは、平成 27 年度経済産業省の「起業家教育普及促進事業」の委託を受け、京都府と事業実施自治体（京都市・亀岡市・京丹波市）・京都中小企業家同友会等と非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センターが連携してコンソーシアムを結成し、京都府内の小・中学校 6 校にてアントレプレナーシップを推進しました。

この事業では、小中学校におけるモデル的な起業家教育の実施により、「起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）」や「起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）」を有する人材の育成・裾野拡大を図ることを目的とし、起業家教育の意義とノウハウを広く周知するとともに、地域に根ざし継続する起業家教育の実践モデルを構築することを目指しました。

1) 京都市立大宅小学校

[学校プロフィール]

学級数	24
児童・生徒数	686
教職員数	50

対象学年	6 年生 4 クラス 125 人
実施時間	総合：約 25 時間＋課外活動約 7 時間

実践概要：

大宅小学校では、6 年生でのキャリア教育を充実させる目的で特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センターの協力を得て起業家教育を取り入れました。実施においては、最初に指導者向けの研修を行い、担当教員が起業家教育の意義や目的を理解した上で、どのように進めるかを話し合いました。そして、総合的な学習の時間を活用して児童にも身近な環境をテーマに、エコ商品を開発する活動内容で進めることにしました。授業では、児童達が模擬会社を設立後、認定 NPO 法人環境市民の方に環境に優しい商品やそれらの広報の仕方について指導いただき、自分達で手作りできるエコ商品考え、製作しました。制作した商品は、商業施設で開催された仮装企業の実践見本市「ユースエンタプライズ トレードフェア」にて代表チームが出展し、取組内容について発表したり、チラシを配布して商品を紹介したりして、完売することができました。最終的には、保護者参観日に全クラス一斉に発表会を行い、互いの学びを共有しました。



トレードフェアでの出展・販売活動を行った後のアンケート結果で、今回の活動に 96%の児童が「学ぶことがあり役立

つ活動だった」と述べており、一番学ぶことがあり役立ったと思う活動としては「トレードフェアに出展するための準備学習」と回答していることから、児童達にとっては、実際にお客さんに自分達の商品を出展・販売したり発表したり機会があることが、学習の動機づけになっていたことが伺えます。また、90%以上の児童が、本活動が「将来の職業を考える」ことや「新しい仕事を作りだしたり、仕事を通じて社会に貢献したり」することに役立つ活動であると回答し、起業については、「ぜひ自分もいつかチャレンジしてみたい」(43%)と「将来機会があれば自分でやっても良いと思う」(30%)を加えると73%もの児童が、起業を職業の選択肢として見るようになり、ほぼ全員が、前より会社を自ら興すことへの関心が向上し、起業家を尊敬するようになっています。

2) 亀岡市立西別院小学校

【学校プロフィール】

学級数	5
児童・生徒数	21
教職員数	10

対象学年	3年～6年生 15人
実施時間	総合：6時間＋課外活動約3時間

実践概要：



西別院小学校では、西別院町青少年健全育成協議会、西別院町子ども育成連絡協議会、西別院小学校PTA等が自治会と一緒に、複数学年合同で「西別院町子どもの心の教育推進事業」を実施しています。起業家教育もこの推進事業のなかで、地域の人達や特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センターの協力を得て行いました。全校で21人という小規模校の特性を活かし、3年生～6年生までの合同授業として、上級生が下級生を支援しながらチームで動けるようなテーマ設定・授業内容としました。また、地域の方々にも参画いただき、子どもたちの起業家精神の育成に関わっていただけよう、事前に地域への協力依頼や広報を行いました。授業では、

自分達が住む地域の資源について理解し、それを活用してがんばっている人達や地域の産業について考え、もっと多くの人達に西別院の良さを知ってもらおう広報会社を模擬設立して、CMづくりを行い、西別院をPRする仕事に挑戦しました。

3年生～6年生という幅広い年代の児童が参加しての活動でしたが、この活動を通じて回答した12人のうち10人(83%)が「自分の住む町の良いところを再発見できた」と回答し、このような活動が自分の住む町の良さを認識することに効果があることがわかりました。また、全員が以前よりは新しく仕事を作ったり会社を営んだりすることに興味を持つようになり、職業の選択肢として「起業」を加えるという点でも効果があったことが伺えました。

3) 京丹波町立瑞穂小学校

【学校プロフィール】

学級数	6
児童・生徒数	164
教職員数	22

対象学年	5年(34人)、6年(23人)計57人
実施時間	総合：2時間＋課外活動34時間

実践概要：

瑞穂小学校では、例年、地域や商工会が主体となって小学生5、6年生の希望者を対象に「子どもベンチャースクール」を夏に実施している。今回は、その活動につながる導入講座を授業のなかで実施し、全員の子どもが地域の資源を活用して、どんなお仕事ができるかを考える機会を設けました。その上で、希望者が「子どもベンチャースクール」に参加し、町の夏祭りで手作り商品を販売した後、自分達で町の特産物を活用した商品を作ったり、町の名産品を仕入れたりして、京都市内のイベント「ユースエンタプライズ トレードフェア」で出展し、取組の発表や販売活動を行いました。

小学校でのワークショップは2時間という短い時間でしたが、この活動を通じて表1に見られるように、81%の児童が「仕事とは雇ってもらうだけでなく、自分で作っていくこともできると理解できた」と回答し、表2からは、「ぜひ、いつか挑戦してみたいと思った」(43%)、「将来、機会があれば自分でもやっても良いかなと思った」(30%)を合わせると73%の児童が起業を職業の選択肢として前向きにとらえ、1人を除き、ほぼ全員(98%)が以前より事業(ビジ



ネス)に興味を持ったことがわかります。職業の選択肢に起業があることの理解促進という点では大きく効果があったと言えます。ベンチャースクールは瑞穂小学校の5・6年生の中の希望者を対象に、前半は8名、その後1名増えて9名で実施したベンチャースクールの参加者は、全員がこの活動に対して「学ぶことがあり役立つ活動だった」と回答しました。また、夏まつりや京都市内の商業施設での販売体験を楽しみ、特に京都市内では知らない一般の人への接客の大変さと同時に営業のやりがいを実感していました。しかし、2回の商品制作・販売の過程では、根気強く同じ商品を作る作業に集中できなかつたり、自分達で提案したもののうまく売れなかつた商品がでたり、売上の数字が合わなかつたり、「仕事」や「商売」の厳しさも体験し、甘い気持ちで商売ができないことも理解することができました。



人数が少ないことから、一概に数値だけで教育効果を図ることは難しいですが、一名を除いて全員が「以前よりも会社経営に興味を持ち、会社を経営する人を尊敬するようになった」と回答しています。参加児童の中には、将来社長になりたいと最初から最後まで積極的に活動している者もいれば、気軽な気持ちで参加し、課題の多さに少々後悔しているような児童との差が最後の感想文等でも出ていましたが、全員が、実践を通じて、多くのことを体験し学んだことが伺えました。

4) 京都市立修学院中学校

【学校プロフィール】

学級数	22
児童・生徒数	630
教職員数	41

対象学年	1年(193人)、2年(217人) の計410人
実施時間	総合：各学年約20時間

実践概要：

修学院中学校では、特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センターの協力を得て、2002年から起業家教育を導入し、数年後に全学年の取組となりました。今では、1年生では地域をよりよくするための提案を行い、2年生では人に喜んでもらえる商品開発、3年では地域の商店街と連携して、生徒が手作りした商品や店舗の人と共同開発した菓子販売を行ったりして、売上収益をフィリピンのNGOに寄付するなどの活動を長年行ってきており、地域の人達にとって、アントレの活動が身近なものになっています。

今年度は、既存のプログラムを見直すにあたり、改めて起業家教育の意義や導入目的などを再確認する意味で教員の研修会を開催し、既存プログラムをより良いものにするための意見交換を行ったうえで、2学期の授業に反映させました。授業では、商店街の運営や魅力ある店舗づくりなどに詳しい外部講師から話を聞いて、自分たちの提案の参考にしました。



修学院中学校は、地域をフィールドに商店街等と連携しながら起業家教育を10年以上実地しており、その実践から、生徒たちが身の回りの課題に積極的に関わる姿勢や新しいことに取り組むチャレンジ精神、チームワーク力、リーダーシップ力、自分自身への自己肯定感などの向上に一定の成果があったとともに、自分達のアイデアを発表する中で、プレゼンテーションやコミュニケーション力、情報技術の活用力の向上などに顕著な成果がありました。そして、最も大きな成果としては、学校教育に地域の方々が協力して下さる体制があるなかで、生徒たちが学校内にとどまらず、地域でも元気に挨拶を交わすようになり、今では、地域の方々が商店街での販売活動等を楽しみしてくださっている状況があることです。



今年の授業では、新しく、授業導入の際に起業家の方の講演を入れましたが、1年生は85%が「商売をするって面白いと思った」と回答しており、授業終了時には、「自分で事業(ビジネス)をするのに興味がありいつか挑戦したいと思う」と回答した生徒が58%、「そう思う」21%、「どちらかと言えばそう思う」37%)、「自分で事業(ビジネス)をしている人を尊敬する」が71%、「そう思う」31%、「どちらかと言えばそう思う」40%)、「自分も仕事を通じて地域の活性化に貢献したい」が72%、「そう思う」35%、「どちらかと言えばそう思う」37%)と答えていました。

また、2年生では、講演の後「地域に商店街のあることの意義が理解できた」100%、「よく理解できた」57%、「なんと

く理解できた」43%)、「商店街が活気づくために必要な要素が理解できた」99% (「よく理解できた」56%、「なんとなく理解できた」43%)、「喜んでもらう商品を提供するたえに自分達がしなければならぬことが理解できた」96% (「よく理解できた」51%、「なんとなく理解できた」45%)、と回答しており、起業家の講演についても、実地したことで目的としての教育効果をあげていることが伺えました。

5) 京丹波町立瑞穂中学校

[学校プロフィール]

学級数	3
児童・生徒数	98
教職員数	14

対象学年	2年 38人
実施時間	総合：2時間

実践概要：

瑞穂中学校では、キャリア教育として2年生で地元の企業や福祉施設等で職場体験を3日間行っています。今回は、この職場体験の前に、地元で活躍される起業家の方のお話を聞くことで、企業に就職するだけでなく、自ら仕事を創る起業という働き方があることを知り、多様な職業観を培うとともに、地域活性化において起業家が果たす役割についても理解する時間を設けました。

教育効果としては、お2人の起業家の方のお話を聞いた生徒のアンケート結果から、全員が「仕事とは雇ってもらうだけでなく、自分で作っていくこともできると理解できた」「働くやりがいや大変さが理解できた」と答え、自らの起業への興味には温度差が見られるものの、前より事業(ビジネス)に興味を持ったことが伺えました。また、8割以上の生徒にとって、将来の進路を考えたり、地元の良さや町がさらによくなるにはどんな仕事・工夫が必要か考えたりするきっかけにもなっており、短時間の活動でしたが、本事業で期待していた教育効果を概ね達成できたと言えます。



6) 京丹波町立和知中学校

[学校プロフィール]

学級数	3
児童・生徒数	98
教職員数	14

対象学年	1年(20人)、2年(22人) の計 42人
実施時間	総合：各学年 2時間

実践概要：

和知中学校では、キャリア教育として、1年生で職業調べ、2年生で地元の企業や福祉施設等で職場体験を3日間行っています。今回、特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センターの協力を得て、起業家的資質を育成するために、これらの活動の前に、自分達で地域の資源を活用してできる事業アイデアの提案活動や、地元で活躍される起業家の方のお話を聞くことで、企業に就職するだけでなく、自ら仕事を創る起業という働き方があることを知り、多様な職業観を培うとともに、地域活性化において起業家が果たす役割についても理解する時間を設けました。

教育効果としては、1年生の事業提案のワークショップでは、参加者のうち約9割が「ふるさとがなくならないように何かできることがあれば自分もしたい」「仕事とは雇ってもらうだけでなく、自分で作っていくこともできると理解できた」と答え、自ら起業することへの関心は6割ほどですが、全員が「以前よりは事業(ビジネス)に興味を持つようになった」と回答しています。このことから、当初にねらいとした教育効果が達成できたと考えられます。また、先生方も入っていただいたワークショップを実施したことから、教員の方への起業家教育についての理解も深まり、社会科などの授業で少し自分なりにやってみようという意見も聞くことができました。2年生では、2人の起業家の話を聞いた後の生徒のアンケートから、全員が「人口減少を食い止め、地域が活性化するには、仕事(働く場)が必要だと理解できた」「仕事とは雇ってもらうだけでなく、自分で作っていくこともできると理解できた」と答え、1名を除くほぼ全員の生徒が「将来の進路を考える上で参考になった」「以前より事業(ビジネス)に興味を持つようになった」と答え、短時間ではありましたが本活動については概ね期待していた教育効果を達成できたと言えます。



➤ グローバル・エンタプライズ・チャレンジ (Global Enterprise Challenge)2015

Global Enterprise Challenge(GEC)は、若者のイノベーションへの興味を喚起するために、16歳から18歳までの青少年を対象に、2001年に始まった国際イベントです。日本は2004年から代表チームを送っており、最初1チームから始まった本競技ですが、今年度の国内予選には、全国から45校29のチームがエントリーし、徐々に参加校が増えております。

国内予選は、審査の結果、開成高等学校、京都市立紫野高等学校、同志社国際高等学校の3チームが世界大会への出場権を得て、6月13日の世界大会に挑戦しました。世界大会では、13カ国から28チームが参加し、優勝は、ウェールズの Coleg Cambria 高等学校が獲得しました。惜しくも入賞は逃しましたが、日本の開成高等学校が4位と健闘いたしました。

その後、GECの世界大会で好成績をだした2チームは、24時間の国際競技 International Science Enterprise Challenge (ISEC)への参加権を得て、開成高等学校はネットで、京都市立紫野高校は現地参加をしました。ISECは青少年の創造力と革新性を伸ばし、科学技術への興味を喚起することを目的に Asia Science Enterprise Challenge として始まりましたが、アジア以外からの参加を奨励するために、2014年から名称を改め International Science Enterprise Challenge として開催され、今年度は、インドネシア、ジャカルタの Surya 大学にて7月24日～25日に行われ、9カ国11チームが参加しました。優勝は、フィリピンの Multiple Intelligence International School でしたが、日本の開成高等学校チームも2位に入賞いたしました。

事業終了後の参加者からのアンケートからは、高校生たちは“課題解決を英語で行う競技で、学校ではできない活動”であることから参加を決めており、参加者の約96%が良い体験だったと評価しており(「大変学ぶところがあり貴重な体験となった(73%)」または「学ぶところがあり良い体験になった(34%)」、チームで意見交換しながら協力したこと(78%)や課題解決のための事業アイデアを考えたと(66%)が楽しく、収支計画(51%)や事業アイデアの提案(43%)が大変だったと回答しています。そして、参加者の98%がまた機会があれば、同様の競技に参加したいと述べており、事業としては、期待した成果を上げていると考えています。

課題としては、今後より多くの学校に参加してもらうための広報と、そうなった場合の審査や運営体制についての整備についての検討していく必要があります。

共 催：ABW Enterprise Education, NASA (アメリカ航空宇宙局)、WIPO (世界知的所有権機構)

助 成：国際交流基金アジアセンター

特別協賛：京都外国語大学、株式会社大貴

協 賛：株式会社島津製作所、日東薬品工業株式会社、ニチコン株式会社、株式会社堀場製作所

後 援：経済産業省近畿経済産業局、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、公益財団法人全国商業高等学校協会、青少年と科学の会(公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都経済同友会、一般社団法人発明協会京都支部)、国立研究開発法人科学技術振興機構、独立行政法人国立高等専門学校機構

【国内予選】 3/21(金) 8:00AM-20:00PM

<課題(challenge)> インターネットの利用で子供が犯罪に巻き込まれるのを防ぐ事業を提案せよ

「With the rapid development of information technology, forms of communication have changed dramatically.

Facebook, Twitter, YouTube, Skype, Line, instant messaging, video conferencing, web meetings: These and many other collaboration and social media platforms are now an everyday part of people's lives around the world. At the same time, the number of cases of young people becoming involved in unfortunate incidents or crimes is increasing. These problems are made worse by the fact that the users themselves are not aware of the risks of using these convenient communication platforms, and even their guardians are not fully prepared to handle them properly. There are some entrepreneurs who are keen to invest in business ideas which will protect children from such unfortunate incidents or crimes. Your challenge for the 2015 GEC National Competition is to produce a working model of an innovative product or service which these entrepreneurs will find interesting and want to provide funding to realize your idea.”]

■入賞チーム

●1位 『iCorrect』（開成高等学校 チーム）

インターネットの Web ページの情報の発信源を追跡して、その信頼度を人口知能で判断して表示するソフトを提案

●2位 『COMPASS』（京都市立紫野高等学校 チーム）

SNS を使ってメールを送信する際に、相手が不快になるような言葉がある場合、「送信して大丈夫か」と確認メッセージがポップアップし、送信前に今一度確認できるアプリケーションの提案

●3位 『SafePop』（同志社国際高等学校 チーム）

スマートフォン用の SNS 利用で、いじめや個人情報の流出につながるような会話に注意を喚起するメッセージがでてきたり、保護者に通知するアプリサービスの提案



【世界大会】 6/13(土) 8:00AM-20:00PM

<課題 (challenge) >Light (光) の効用を実感できる革新的な広報事業を提案せよ

「Design an innovative exhibit, to inform communities, government and the media about the ways light affects our lives. This exhibit could be a trade display, website, travelling education experience or similar and could include a working model, smart phone apps, social media, print, or other material illustrating a new technique or approach and should be appropriate to your region. Your product, process, or service should feature light as a primary resource and deliver benefit in one or more of the following areas: education, health, community, home, leisure, entertainment or business.」

■入賞チーム

●1位 『LiteLearn』（Coleg Cambria、ウェールズ）

学校で使用が禁止されているスマートフォンのカメラで QR コードを読み取ることで、提供するヘッドセットを使い、3D イメージを体験できる教材の提案

●2位 『THE SPECTRUM』（Figtree High School、オーストラリア）

光 light の効能を様々な視点から体感できる展示の提案

●3位 『RIGHT TO LIGHT』（Multiple Intelligence International School、フィリピン）

光 light の重要な役割を体験したあと、電球づくりを体験し、それを電気がない地域に寄付する場所の提案

●Creativity 賞 『ASSANITATE』（GEC Korea 5、韓国）

紫外線の光を出すブラックライトを使い、簡単に見えにくい汚れを見つけて、抗菌剤を飛ばすシューティングゲームの提案



【アジア大会】 International Science Enterprise Challenge (ISEC) 7/24(金)10:15 ～7/25(土)10:15

2015年のISECはインドネシアのSurya大学にて7月24日～25日にかけて開催され、9カ国11チームが参加し、日本では、GECの世界大会での成績で一番高い成果を残した開成高等学校チームがインターネットにて、京都市立紫野高等学校チームがインドネシアにて現地参加いたしました。現地参加した京都市立紫野高校の生徒達は、現地にてインドネシアの生徒達と交流して友好を深めるとともに、文化の違いを体験して、良い学びを得て帰国いたしました。この体験で、その後の進路を決定した参加者も大勢出てきています。

＜課題 (challenge)＞ 農業用水の効率を改善するための革新的な製品やサービスを提案せよ

「Throughout the world there is an increasing need to grow more food to feed the growing population. Hence, up to three-quarters of the world's water supply is used for the watering of crops and the rearing of livestock. Large-scale irrigation projects are often developed to channel water from rivers, lakes, and ground water sources to farming areas that receive little rainfall. Unfortunately, a large number of water uses in agriculture is wasteful and unsustainable due to leaky irrigation systems, wasteful field application methods, and the cultivation of thirsty crops not suited to the environment. Therefore, your challenge today is to design a product or service or collaborative platform to improve the efficiency of water usage in agriculture.」

■入賞チーム

- 1位 『Biobox』 (フィリピン、Multiple Intelligence International School)
垂直農法型で雨水を活用し、大きな箱のなかで水を有効活用して植物を育てることを提案
- 2位 『AquaSAT』 (日本、開成高等学校)
衛星を使い、適切な水量情報を農家に伝えるアプリケーションの提供



Japan_KaiseiHighSchool

AquaSAT

Vision:

Water is essential for life and agriculture. However, the amount of water available is decreasing due to climate change and population growth. AquaSAT is a satellite-based system that provides accurate water usage information to farmers, helping them optimize their irrigation and reduce water waste. This system will be a key component of a smart agriculture platform that improves the efficiency of water usage in agriculture.

Business Model:

AquaSAT will be a subscription-based service. Farmers will pay a monthly fee to access the AquaSAT platform and receive water usage data. The platform will also offer additional services such as weather forecasts and crop health monitoring.

Biobox

Business Model:

Biobox is a vertical farming system that uses hydroponics and LED lighting to grow crops in a controlled environment. This system allows for year-round production and reduces the need for pesticides and fertilizers. Biobox will be sold as a complete kit to home gardeners and small-scale farmers. The kit will include the Biobox unit, seeds, and a user manual. Biobox will also offer online support and training for users.

▶ ソーシャルリーダー育成・交流事業：Gerakan Mari Berbagi（共に分かち合おう）プログラム」

本事業は、インドネシアと日本の両国において、次世代を担う若者達が、異なる文化・価値観への理解や多様な視点を培う機会を通じて共に学びを共有することで、社会に貢献できる若きリーダーを育成することを目的として2014年から実施しているものです。

2015年度は、5人の研修生が社会事業を推進する上で必要なスキルを取得するための事前研修を行った上で、インドネシアのNGOにて現地研修を行いました。インドネシアでは、8月28日～9月14日の約20日間のうち、首都ジャカルタに3日間滞在し、現地のソーシャルプロジェクトを視察した後、ジャカルタにてホームステイをしながら、各研修生の興味・関心に沿ったテーマに取り組んでいる現地のNGOにて約2週間のインターン研修に参加しました。

事前研修では、実際に事業を推進するにあたり必要な資金やサポーターを集めるだけの起業家行動力を伸ばすために、渡航費用など研修に発生する最低限の費用を自ら集めるファンディング活動を行いました。渡航先では、ジャカルタでNGO等を視察訪問した後、ジョグジャカルタにて社会問題の解決に取り組む公的機関やNGO/NPO法人などで研修し、多様な課題解決の実践的な手法について学びました。ジョグジャカルタでは、現地の大学生と一緒にインドネシアでも大きな社会問題となっているゴミの処理方法について考えるワークショップを共同開催しました。

また、現地の一般家庭でホームステイし、異なる文化や慣習、生活様式に触れると同時に、現地の人々との交流を通じて多様な意見や価値観に触れ、相互理解を深めました。ジョグジャカルタでの研修中は、GMBインドネシアの参加学生たちが、ボランティアとして研修先への送迎や案内、通訳などを積極的に担ってくれました。こうした同世代の若者たちとの密接な交流を通じ、互いの文化への理解を深めると同時に、言語や文化の壁を越えて、お互い信頼し協力し合える関係を築けたことは、研修生達にとって大変貴重な経験となりました。研修生達は帰国後もお世話になったNGOのHPの作成を手伝ったり、障害児童の絵を商品化して資金調達して施設に必要な教育機器を寄付したりして活動を続けています。また、同時に、3月24日から来日したインドネシアからの6名の研修生のホームステイを引き受けたり、研修先に同行支援したり、歓送迎会を企画運営したりして、事業の運営に積極的に参画しています。

インドネシアからの派遣生たちも、各自の興味関心に合うように当センターで調整した企業や非営利団体で3週間研修を行い、貴重な学びと友人を得て帰国いたしました。

本事業では、研修生だけでなく、研修受入団体や助成先からも高い評価を得ており、長期プログラムであるため運営にかなりの労務コストがかかりますが、プログラムの卒業生達の積極的な参画を促しながら、引き続き実施していく予定です。

主 催：特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

共 催：Gerakan Mari Berbagi 財団

助 成：公益信託アジア・コミュニティ・トラスト、インドネシア青少年とスポーツ省、
独立行政法人国際交流基金、公益財団法人双日国際交流財団、公益財団法人三菱UFJ国際財団

研修先

研修受入先は、各自のバックグラウンドや興味・関心を考慮して、毎年マッチングを行い決定しています。

1)2015年日本人研修生のインターンシップ受入先

- ・ Habitat for Humanity Indonesia
- ・ Yayasan Sayap Ibu
- ・ Stichting Help for Jogja
- ・ Project Child
- ・ LBH Jogjakarta
- ・ PUSDEMA Universitas Sanata Dharma
- ・ PUSHAM Universitas Islam Indonesia

2)2016 年インドネシア研修生のインターンシップ受入先

- ・公益財団法人京都文化コンベンションビューロー
- ・株式会社堀場製作所
- ・合同会社ゆうあんビィレッジ
- ・社会福祉法人全国手話研修センター
- ・社会福祉法人京都市聴覚言語障害者福祉協会 京都市聴覚障害者センター
- ・大阪イノベーションハブ

プログラム概要

年 月 日	スケジュール
2015.1.5	2015 年(平成 27 年)度の研修派遣生の参加者募集開始
2015.3.10	応募締切
2015.4.4&5	<p>書類選考合格者対象に Youth Leaders Workshop 2015 を実施</p> <p>現地カウンターパートナーの Dede Prabowo 氏による英語でのガイダンスを受けた後、インドネシア人留学生からインドネシアについての文化紹介をしてもらい異文化交流を楽しみました。また、チームに分かれてワークショップを行い、資金を調達するための課題に取り組みました。</p> 
2015.4.19	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第 1 回研修会議</p> <p>各自の社会事業プロジェクトのテーマを共有した後、今後の資金調達活動についての目標設定・方法・今後のスケジュールについて話し合いました。</p>
2015.5.10	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第 2 回研修会議</p> <p>各自の社会事業計画の進捗状況を全体で共有し、今回の取り組みを今後のキャリアにどう繋げたか、帰国後の活動も見据えて話し合いました。また第1回となる資金調達活動の映画上映会について、担当を決定し詳細について話し合いました。</p>
2015.5.24	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第 3 回研修会議</p> <p>現地滞在中に実施する予定のシンポジウムについて、現地の学生との意見交換の場で扱う社会問題テーマの設定やプログラムのコンテンツについて話し合いました。</p> 
2015.6.4	<p>選抜生企画第1弾「幸せの経済学」上映・意見交換会開催</p> <p>立命館大学衣笠キャンパスの会議室にて自主上映会を開催しました。お集まりいただいた参加者の皆様と上映後、感想や意見交換をしました。</p> 

2015.6.14	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第4回研修会議</p> <p>各自の社会事業計画の進捗状況を全体で共有した後、第2回資金調達活動としての上映会について、内容を決定し、ターゲットや広報手段について話し合いました。</p>
2015.6.19	<p>日本最大級のクラウドファンドサイト「JapanGiving」で資金調達活動を開始</p> 
2015.6.26	<p>選抜生企画第2弾「アクト・オブ・キリング」上映・意見交換会開催</p> <p>同志社大学江湖館にて 1960 年代にインドネシアで起きた大量虐殺を再現したドキュメンタリー映画を題材に自主上映会を実施しました。交流会では参加したインドネシア人留学生からも意見を聞くことができました。</p> 
2015.6.28	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第5回研修会議「中間報告会」開催</p> <p>各自これまでの取り組みの成果と反省を発表し、今後の計画について共有しました。カウンターパートナーの Dede Prabowo 氏もスカイプで会議に参加し、アドバイスをいただきました。</p> 
2015.7.7	<p>GMB-Japan の Facebook ページ完成</p>
2015.7.12	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第6回研修会議を開催</p> <p>中間発表の反省会と今後の取り組みについて確認した後、非営利組織のお金の流れについて学習し、どうすればサポーターが集まるのか話し合いました。また、これまでの資金調達活動の反省を踏まえ、今後の計画について意見を出し合いました。</p>
2015.7.26	<p>選抜生たちのソーシャルプロジェクトの第7回研修会議を開催</p> <p>各自の社会事業プロジェクトについて英語でのプレゼンテーション練習を行いました。また第3回資金調達活動で実施するインドネシア料理のレストランについて、これまでの資金活動の反省をもとに、より効率的で効果的なターゲットの絞り込みや広報方法について話し合いました。</p>

2015.8.7	<p>選抜生企画第3弾"Warung Indonesia ～インドネシア食堂～"開催</p> <p>京都市にある日替わり店長が体験できるレストラン「魔法にかかったロバ」にて、インドネシア人が作る本格インドネシア料理店を1日限定オープン。店内は沢山の客さまで賑わいました。</p> 
2015.8.8&9	<p>Youth Leaders Workshop 2 回目開催 渡航前の研修を実施</p> <p>インドネシア特有の文化や習慣などインドネシア人留学生の Muna さんから講演していただきました。また衛生面、交通面など、現地での生活における注意事項を確認するなど渡航前ガイダンスを行いました。</p> <p>また最後の事前研修として、国際協力コンサルタント、コミュニティ開発専門家の原康子氏を講師としてお招きし、対話型ファシリテーションワークショップを実施し国際協力の現場で求められる「真実を問う力」を習いました。</p> 
2015.8.21	<p>選抜生によるオリジナルノート完成</p> <p>選抜生の一人が個人で取り組むファンドレイジング活動として、オリジナルノートを作成しました。ターゲットは外国人観光客で、「Japan」をテーマにしたデザインになっており、売上は研修費用の一部に充てます。</p> 
2015.8.28	<p>ジャカルタに向けて出発</p> <p>ジャカルタ空港でカウンターパートの Dede 氏と GMB インドネシアチーム学生ボランティアの Desta さんが出迎えてくれました。</p> 
2015.8.29	<p>オリエンテーション/ソーシャルプロジェクト" Youth for Diffable" 見学</p> <p>GMB の創設者 Azwar 氏のオフィスにてオリエンテーションと歓迎会。GMB インドネシアチームの学生から現在取り組んでいる社会事業について発表してくれました。午後からは聴覚障害を持つ子どもたちのための学習支援事業、Youth for Diffable を見学。手話を教わったり、現地の子どもたちに日本のゲームを紹介したりしました。</p>  

2015.8.30	<p>ソーシャルプロジェクト”Sahabat Anak”見学／高級百貨店・スラム街訪問</p> <p>ストリートチルドレンに教育機会を提供している学習支援団体の Sahabat Anak が主催するキャンプイベントを訪問。事業創設者の方を交えて意見交換を行いました。午後からは高級百貨店を見学した後、ジャカルタ市内のスラム街を訪れました。貧富の差を眼の当たりにするとともに、スラム街にある町内会のようなコミュニティ運営の仕組みを学びました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
2015.8.31	<p>ジョグジャカルタへ移動、ホストファミリーと対面</p> <p>ジャカルタを出発し、電車に乗ってジョグジャカルタに移動。駅では GMB ジャカルタメンバーで LO を務めてくれる学生や、ホストファミリーが出迎えてくれました。</p> <div style="text-align: right;">  </div>
2015.9.1&2	<p>研修生受け入れ先 NGO へ事前訪問(グループで)</p> <p>世界で住宅支援を行う国際 NGO の Habitat for Humanity をはじめ、障害を持つ孤児のための養護施設 Sayap Ibu、貧しい子どもたちに教育機会を提供する Project Child や人権教育やアドボカシー活動を行う人権団体 LBH など、計 7 か所の研修先を訪問し、お世話になるスタッフの方々と今後のスケジュールについて打ち合わせをしました。</p> <div style="text-align: right;">  </div>
2015.9.3-10	<p>各自研修受入先でインターンシップ開始</p> <p>研修先で子どもたちにアートや英語、日本文化を教えたり、現地のボランティアスタッフとともに汗を流したり、専門家からレクチャーを受けたりと、大変有意義な研修となりました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
2015.9.5	<p>文化体験(ボロブドゥール遺跡・プラバナン寺院観光)／ソーシャルプロジェクト”Podo Nara”見学</p> <p>世界最大級の仏教寺院ボロブドゥール遺跡、ヒンドゥー寺院プラバナン寺院群などインドネシアを代表する世界遺産を観光。夜はジャワの伝統舞踊を観賞しました。また GMB インドネシアチームの学生が取り組んでいる放課後の教育支援活動を訪問。子どもたちの前で日本文化や習慣などクイズを交えて紹介しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

2015.9.6	<p>研修先 NGO の方々とお好み焼きパーティー／インドネシア伝統楽器体験</p> <p>研修先 NGO のスタッフの方々や子どもたちを招待して、日本人研修生チームはお好み焼きを紹介。日本とインドネシア両国の食文化を紹介する文化交流イベントとなりました。午後からは近所でガムランというインドネシアの伝統的な民族音楽楽器の演奏を体験しました。</p> 
2015.9.10&11	<p>インターンシップ先にて研修のまとめの発表</p> <p>研修最終日には、それぞれ研修先でお世話になったスタッフの方々の前で、各自がこれまで取り組んできた社会事業について発表し、意見やアドバイスなど頂戴するとともに、現地での研修を終えて学んだこと・感じたことを報告しました。</p> 
2015.9.11	<p>ガジャマダ大学にてゴミ問題をテーマにしたワークショップ開催</p> <p>ゴミ問題に詳しい現地の専門家の方や、今回 GMB プログラムに助成してくださった国際交流基金の職員の方を招いて、ガジャマダ大学にて学生主体のワークショップを開催。日本人研修生は日本のゴミ問題への取り組みについて紹介したのち、チームに分かれてゴミ問題を解決するための持続可能なビジネスモデルを考えるチャレンジに挑戦し、現地学生と意見交換を行いました。</p> 
2015.9.12	<p>送別会、研修全体を通して振り返り</p> <p>お世話になったホストファミリーや研修先のスタッフの方々を招いて、GMB プログラム全体を振り返り、一人ずつ感想とエピソードを語り、全体で共有しました。その後、これまで練習してきたソーラン節と、GMB のテーマソングを日本語・インドネシア語の両言語で披露しました。</p> 
2015.9.13	<p>ジャカルタから関西に向けて出発(14 日関西空港到着)</p> <p>たくさんの思い出と一緒に帰国しました！！</p>

2015.9.27	<p>研修報告会</p> <p>お世話になった方々を招待して、研修報告書をお渡しするとともに、研修の報告会を開催しました。渡航費用の寄付に協力していただいた方や研修生の家族の方が参加下さり、研修生の学びを共有いただくことが出来ました。</p> 
2015.10月～2016年	<p>日本チーム定例会議</p> <p>週に一度集まり(東京の学生はスカイプ参加)、研修を受け入れてもらった NGO の継続支援の実施について議論したり、2016年2月に来日予定のインドネシア研修生の滞在中の企画を練ったりしました。</p> 
2015.11.29	<p>ユース・エンタプライズ トレードフェアに出展</p> <p>研修先の障害孤児施設 SayapIbu への寄付金を募るため、SayapIbu の入所児童が描いた絵をタンブラーやノートにして商品化したものや、コーヒーなどのインドネシアの特産品を仮装企業の出展見本市「ユース・エンタプライズ トレードフェア」に出展し販売。</p> 
2015.12.13	<p>KBS 京都のお祭りで出展</p> <p>KBS 京都ラジオの 64 周年記念イベントで GMB-JAPAN のブースを出店。SayapIbu への寄付金調達のための販売活動を行いました。寒いためか、コーヒーが良く売れました。</p> 

2016.2.1	<p>2017 年研修生募集開始</p> <p>2017 年の派遣研修生の募集を開始し、GMB2015 期生が主体となって広報活動を行いました。</p>
2016.3.	<p>調達資金で SayapIbu へ寄付する教育機器を購入</p> <p>10 月からずっと取り組んでいた寄付のための資金調達活動を無事終了し、調達資金の半分で障害孤児院 SayapIbu の入所児童が使える教育機器(タブレットとデジタルカメラ)を購入。来日するインドネシア人の研修生に届けてもらいました。 また、残り半分のお金は、来日するインドネシア研修生の歓送迎会の食費として使うことに決定。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="379 454 815 768" style="width: 45%;"> <p>Detail pesanan:</p> <p>PEMBERIAN # 1 Diserikan oleh Lazada 02 Feb - 04 Feb, 2016 via Standard Pengiriman</p> <p>Mikon Couple L540 Kamera Digital - 20.2 MP - 30x Digital Zoom + 3D Color RGB Kuantitas: 1 Pusat: Lazada Rp 2199000.00</p> <p>PEMBERIAN # 2 Diserikan oleh VNSIC Brand Flagship Store 02 Apr - 08 Apr, 2016 via Standard Pengiriman</p> <p>HUON PENTODOL 687P Professional Professional Signature Graphics (Drawing Tablet with TF Card Reader) (Screen Basic) Kuantitas: 1 Pusat: VNSIC Brand Flagship Store Rp 1819000.00</p> </div> <div data-bbox="874 465 1302 786" style="width: 45%;">  </div> </div>
2016.3.23	<p>インドネシア研修生、日本に向けて出発</p> <p>昨年の 1 月から始まった選考と研修を経て、この研修プログラムに参加するために懸命に準備をしてきたインドネシア研修生達。 ジャカルタに集まって、全員一緒に出発。マレーシアのクアランプール経由で日本の関空へ。</p> <div data-bbox="1051 842 1433 1128" style="text-align: right;">  </div>
2016.3.24	<p>GMB 日本チームによる歓迎会</p> <p>早朝に関空に到着し、京都に 10 時半に到着。会場で少し休んだ後、午後から、GMB の日本チームのホストでホストファミリーと一緒に歓迎会。日本食を食べながら、自己紹介を行ったあと、週末の予定確認をして、これからお世話になる家族とともに解散！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="363 1317 743 1597">  </div> <div data-bbox="754 1317 1129 1597">  </div> </div>
2016.3.25	<p>オリエンテーション／京都観光</p> <p>朝にアントレプレナーシップ開発センターに集まってオリエンテーションを行った後、日本チームの引率で、金閣寺、立命館大学、北野天満宮を観光。この日はちょうどメンバーの一人が誕生日だったので、みんなでサプライズのお祝いも！ ちょっと花見には早かったですが、良い文化体験となりました。</p> <div data-bbox="1031 1715 1433 2011" style="text-align: right;">  </div>

<p>2016.3.26&27</p>	<p>観光／ホストファミリーと過ごす週末</p> <p>各自ホストファミリーと過ごす日ですが、京都のメンバーたちは一緒に集合して、日本チームと一緒に京都御所、清水寺、伏見稲荷大社の観光へ行きました。</p>  
<p>2016.3.28</p>	<p>インターンシップ開始</p> <p>ホストファミリーの家から、研修先に出勤！研修初日。緊張しながらも、新しい出会いにワクワクする一日となりました。</p>  
<p>2016.3.30</p>	<p>インドネシア研修生＋日本チームの定例会議</p> <p>遠方の研修生はスカイプで参加し、研修の様子を話したり、週末の予定の確認を行いました。</p>
<p>2016.4.2&3</p>	<p>ユースリーダーシップワークショップ</p> <p>日本人学生を交えたワークショップを開催。日本チームが主体となって、司会進行。Icebreakingのゲームや、チームで資源を増やすチャレンジを行ったあと、一緒に夕食！インドネシアと日本の研修生の体験紹介をして友好を深めた初日。翌日は、Critical thinking の講義のあと、デザイン思考の実践ワークショップを通じて、相手の本当のニーズを知り、形にする訓練を受けました。最後に、リーダーに必要な資質について考え、みんなで GMB の歌を歌って解散！新しい学びと友人を得た 2 日間となりました。</p>  
<p>2016.4.6</p>	<p>インドネシア研修生＋日本チームの定例会議</p> <p>研修の様子について情報共有したと、東京旅行や 16 日の発表会の確認などを行いました。</p>

2016.4.8-10	<p>東京観光</p> <p>夜行バスで東京へ出発。翌日早朝に東京に到着し、湯島神社を観光。その後、GMB の創設者 Azwar Hasan 氏を出迎え、午後は北の丸公園、靖国神社、浅草を観光。男子チームはカプセルホテルに宿泊し、女子は東京にいる日本チームメンバーのアパートに宿泊しました。翌日は、原宿、明治神宮、表参道、渋谷、江戸東京博物館を観光。Yusuf 以外は、新幹線で京都へ戻りました。(Yusuf は最終週を東京で研修)</p> 
2016.4.15	<p>インターンシップ最終日</p> <p>3 週間の研修も今日で終わり。インターン生としてインドネシア人を受け入れてくれた研修先の皆様、ありがとうございました。</p> 
2016.4.16	<p>研修のまとめの発表／送別会</p> <p>研修先でお世話になった職員の方やホストファミリーを招き、日本滞在中に学んだことをまとめて各自発表しました。夜は GMB インドネシアチームと日本チームと一緒に作った夕飯と共に、送別会を行いました。 楽しい時間も、あっという間に終わり、涙で別れを告げました。</p> 
2016.4.17	<p>ホストファミリーとの休日</p> <p>日本で過ごす最後の日は、各自ホストファミリーと充実した時間を過ごしました。</p>
2016.4.18	<p>関西国際空港からジャカルタに向けて出発(19日ジャカルタ到着)</p> <p>無事ジャカルタに到着！日本の寒い気候から、インドネシアの蒸し暑い気候へ。みんな逆カルチャーショックがしばらく続きました。</p>

3.普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営

▶ ユース・エンタプライズ トレードフェア 2015

第15回目となります「ユース・エンタプライズ トレードフェア」を11月29日にゼスト御池にて開催しました。当日は、全国各地から28チーム（小学生2チーム、中学生1チーム、大学生25チーム）が参加し、日頃取り組んでいる起業家教育の活動成果を展示販売やステージでのプレゼンテーションを通じて発表しました。

今年の京都府知事賞は群馬の特産品上州麦豚を活用した”すきやきまん”を販売した「上州くいだころ」（共愛学園前橋国際大学）チームが受賞しました。また、京丹波町の特産物の京かんざしや黒豆を使った菓子や京丹波町を宣伝するオリジナルバックなどを販売した京丹波町立瑞穂小学校の「みずほキッズベンチャー社」は総合得点2位と活躍し、異能工房賞を受賞いたしました。その他にも、京都工業会賞を受賞した「Mountain」（愛知学院大学）チームの自転車向け骨伝導ヘッドホン、京都経済同友会賞を受賞したの「みずさわ屋」（共愛学園前橋国際大学）の群馬名産品水沢うどんを使ったデザート、京都中小企業家同友会賞の「ひととせ。」（近畿大学）チームの越前和紙のアクセサリなど、若者ならではのユニークな発想の商品が数多くありました。

会場となったゼスト御池は、地下鉄駅「京都市役所前」と直結している地下商店街で、従来の大学の会場などと比較すると、多くの方が出展ブースに立ち寄られ、出展者は、一般顧客に商品や活動の説明・販売をする大変さと同時にやりがいを感じているようでした。また、普段学校で活動しているだけではなかなか得られない第三者の意見や助言をもらうことができたり、良い実践をしている他のチームの取組から刺激を受けたり、貴重な体験をすることができ、イベントが終了した後の活動に活かしています。一方で、会場の寒さ、出展ブースの分散や発表ステージの狭さなど、運営側で対応できない問題もあり、会場選定において何を優先するかが課題となっております。今後、より多くの学校に参加いただくための工夫も含め、次年度の開催に向けて検討して行きたいと考えています。

■参加者■

- 約1500名(内訳: 出展者と関係者 約300名 その他来場者約1200名)

■広報やマスコミ取材■

- 京都市教育委員会の「みやこ子ども土曜塾」のHP掲載・情報誌「GoGo土曜塾」（9月～11月号）に掲載（京都市内の小中学生約250校と全ての保護者に13万部発行）
- ゼスト御池「かわら版」11月号に掲載（新聞折込8,000部+館内等配布3,000部）
- イベントHPやSNS、メールマガジンにて配信（6～12月）配信数約5000/月
- その他：多数のメールマガジンや掲示板にても多数活動紹介

■協賛■

- 寄付協賛：有限会社アミックス、株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、京都信用金庫、京都中央信用金庫、株式会社島津製作所、株式会社大貴
- 広告協賛：株式会社井筒八ツ橋本舗、株式会社京織（京都さかの館）、株式会社土井志ば漬本舗、よーじやグループ
- 商品協賛：株式会社井筒八ツ橋本舗、異能工房（コワーキングスペース）、オムロンヘルスケア株式会社、株式会社如月社（京都シネマ）、よーじやグループ

■後援■

経済産業省、厚生労働省、文部科学省、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府立高等学校PTA連合会、京都市PTA連絡協議会、京都府私立中学高等学校保護者会連合会、京都府私立中学高等学校連合会、青少年と科学の会（公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都経済同友会、一般社団法人京都発明協会）、全国高等学校進路指導協議会、全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会、日本社会科教育学会、一般社団法人日本教育情報化振興会、公益財団法人全国商業高等学校協会、日本キャリア教育学会、特定非営利活動法人日本シミュレーション&ゲーミング学会、公益財団法人京都産業21、京都中小企業家同友会

【活動内容】

10:00 開会式

主催者挨拶：市原 達朗（トレードフェア実行委員会 委員長）

開会宣言：大山 和希（みずさわ屋 社長 共愛学園前橋国際大学2年生）*昨年度の知事賞受賞校



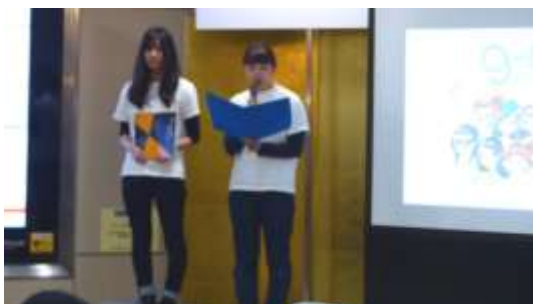
10:30 展示販売開始

全国から集まった小学生～大学生のチームが、自分たちが取り組むプロジェクトの商品をブースにて販売。



11:00 プレゼンテーション（河原町広場のステージにて）

事業内容のプレゼンテーションを行いました。この間、審査員が、参加チームの実践を、事業内容・社会貢献度・地域との連携・展示販売や発表方法などを総合的に見て、評価しました。



15:30 展示販売終了

16:00 審査結果の発表と表彰式

審査は、10名の審査員が、トレードフェアに出展する前のインターネットでの活動発信の内容を見ての事前評価と、トレードフェア当日の展示ブースでの販売や接客、プレゼンテーションの発表の内容についての評価を総合して審査し、優れた実践に対して賞を授与しました。



17:00 閉会の挨拶

山下 晃正（京都府 副知事）



●京都府知事賞 受賞チーム『上州くいどころ』（共愛学園前橋国際大学）

「群馬のすき焼き」をより多くの人に知ってもらうために「すきやきまん」を開発・販売。



「すきやきまん」

●京都工業会賞 受賞チーム『Mountain』（愛知学院大学）

イヤホンを着用したままの自転車の運転の危険性やヘルメットの普及について考え「骨伝導ヘッドホン」を開発・販売。



「インカム付き骨伝導コミュニケーター」

●京都経済同友会賞 受賞チーム『みずさわ屋』（共愛学園前橋国際大学）

手打ち水沢うどんの切れ端を有効活用することによって、牛乳プリンのようなデザート「よーいうどん！」を開発・販売。



「よーい うどん！」

●京都中小企業家同友会賞 受賞チーム『ひととせ。』(近畿大学)

若い人を中心に和紙の良さを知ってもらうために、日常的に使える和紙雑貨を開発・販売。



「和紙雑貨」

●異能工房賞 受賞チーム『みずほキッズベンチャー』(京丹波町立瑞穂小学校)

京丹波町の良さを知ってもらえるような商品とバッグを作成し、販売。



「丹波町バッグ」と「京かんざしマフィン」

●異能工房賞 受賞チーム『まなboo』(目白大学)

バーチャルリアリティ技術を利用し、普段は感じることのできない楽しさや面白さを感じながら勉強できる「VRメガネ」を開発。



「VRメガネ」

●スチューデント賞 受賞チーム 『プロティア』（愛知学院大学）

防災というものをより身近に感じてもらえるような防災マップを作成。



「防災マップサイト」

●ベストショップ賞 受賞チーム 『Miki Natural Company』（尾道市立美木中学校）

地域の資源を最大限活用することにより、自然に優しく、地域の活性化につながることを目指し、腐葉土を開発・販売。



「腐葉土」

●特別賞 受賞チーム 『parasola』（同志社女子大学）

「空から地域を変えていく」をコンセプトに、キララ商店街に傘でカラフルなアーケードをつくり、オリジナルのバックを作成し、販売。



「いこ☆バック」

●特別賞 受賞チーム『アペゼート』(近畿大学)

阪神・淡路大震災を風化させないために地元の阪神・淡路産の食材だけにこだわり、毎日の食卓に欠かせない『ご飯のお供』の開発・販売。



「ゴロジュレ〜ぼっかけ風揚げしらすジュレ〜」

●特別賞 受賞チーム 『大宅オールウェイズ One』(京都市立大宅小学校)

子どもにとっても使いやすい、環境に優しい商品を開発・販売。



「リメイク眼鏡ケース」と「リサイクル小物入れ」

4. 起業や事業運営に関わる研修やコンサルティング事業

●奈良県立教育研究所 研修会

奈良県立教育研究所 で「アントレプレナーシップ教育から考えるキャリア教育」と題して小・中・高校の先生方約 40 名を対象に、研修を実施しました。

開催日：平成 27 年 8 月 17 日(月)

場 所：奈良県立教育研究所

対 象：小・中・高等学校の教員約 40 名

●平成 27 年度「障害福祉サービス事業所仕事おこし支援事業」人材育成研修

特定非営利活動法人滋賀県社会就労事業振興センターにて障害者の就労支援事業所が、利用者の方の就労に必要な知識及び能力の向上を果たすことを目的に、中核人材の方の経営力を向上するための研修を実施しました。

開催日：平成 27 年 10 月 1 日(木) 13:30～17:00

平成 27 年 12 月 3 日(木) 13:30～17:00

平成 28 年 2 月 18 日(木) 13:30～17:00

会 場：特定非営利活動法人滋賀県社会就労事業振興センター

●長浜青年会議所 Vison16 創出委員会 ワークショップ

一般社団法人長浜青年会議所のアントレプレナーシップカリキュラム開発会議にて自分達でリキュラムを開発できるようなワークショップを行いました。

開催日：平成 28 年 2 月 27 日(土)

会 場：一般社団法人長浜青年会議所

●その他講演等

- ・ 社会福祉法人福知山学園主催第四回「FUKUGAKU オープンセミナー」「働くこと生きること」のコーディネーターを務めました (2015/12/12)
- ・ 公益社団法人日本青年会議所 2016 年度京都会議 次世代アントレプレナー育成委員会にて講演 (2016/1/23)



5. その他

●公的な委員等

- ・ 京都府地域創生推進会議委員
- ・ 京都府府民力推進会議委員
- ・ 京都府雇用創出・就業支援計画推進会議委員
- ・ 京都府障害者雇用促進会議委員
- ・ 京都府工賃向上計画検討委員

■□2015 年度メディア掲載等-----

当センター支援している活動が以下のマスメディアで紹介されました。

- ・ 2016 年 3 月 18 日 読売新聞 「起業家教育 挑戦心養う 模擬会社作り商品販売まで」
- ・ 2016 年 2 月 20 日 京都新聞 「一緒にやろうよ 起業家教育の授業で考案したエコ商品を発表する児童たち（大宅小）」
- ・ 2016 年 2 月 19 日 京都丹波新聞 「西別院小学校の児童たち 地元で取材活動に励む ホームページで公開」
- ・ 2016 年 2 月 11 日 京都新聞 「僕らのまち 魅力 CM に 亀岡・西別院小「頑張る人がいる」」

2015 年度 決算報告

Financial Report

平成 27 年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書

自平成 27 年 4 月 1 日 至平成 28 年 3 月 31 日

(単位：円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	310,000		
賛助会員受取会費	60,000	370,000	
2. 受取寄附金			
受取寄付金	1,902,768	1,902,768	
3. 受取助成金等			
受取助成金	2,767,592	2,767,592	
4. 事業収益			
教育教材開発・導入支援事業収益	5,473,087		
普及促進事業収益	615,600		
研修・講座事業収益	749,372		
その他	148,318	6,986,377	
5. その他収益			
受取利息	5,947	5,947	
経常収益計			12,032,684
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費	6,464,604		
(2) その他経費	3,944,350		
事業費計		10,408,954	
2. 管理費			
(1) 人件費	643,036		
(2) その他経費	836,167		
管理費計		1,479,203	
経常費用計			11,888,157
当期経常増減額			144,527
III 経常外収益			0
IV 経常外費用			0
経常外費用計			
税引前当期正味財産増減額			144,527
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			74,527
前期繰越正味財産額			19,634,316
次期繰越正味財産額			19,708,843

平成 27 年度「特定非営利活動に係る事業」貸借対照表

平成 28 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	181,449		
普通預金	24,272,026		
立替金	4,298		
流動資産合計		24,457,773	
2 固定資産			
保証金(敷金)	500,000		
固定資産合計		500,000	
資産合計			24,957,773
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,298,930		
前受収益	450,000		
流動負債合計		1,748,930	
2 固定負債			
退職給与引当金	3,500,000		
固定負債合計		3,500,000	
負債合計			5,248,930
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		19,634,316	
当期正味財産増加額			
当期収支差額	74,527	74,527	
正味財産合計			19,708,843
負債及び正味財産合計			24,957,773

平成 27 年度「特定非営利活動に係る事業」財産目録

平成 28 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目 ・ 摘 要		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手元有高	181,449	
普通預金	京都銀行西五条企業会館支店	7,621,671	
	京都中央信用金庫西大路五条支店	16,650,355	
立替金		4,298	
	流動資産合計		24,457,773
2 固定資産			
保証金(船越メディカルビル事務所保証金)		500,000	
	京都市中京区両替町通丸太町南入西方寺町160-2 船越メディカルビル 3F		
	固定資産合計		500,000
	資産合計		24,957,773
II 負債の部			
1 流動負債			
前受収益		450,000	
未払金		1,298,930	
	流動負債合計		1,748,930
2 固定負債			
退職給与引当金		3,500,000	
	固定負債合計		3,500,000
	負債合計		5,248,930
	正味財産合計		19,708,843

＜協賛・助成団体＞

 株式会社 大貴	 SHIMADZU Excellence in Science
 雑貨王国 ZAKKA Kingdom	 SUS
 エフタイム etime	 地域とともに コミュニティバンク 京都信用金庫
 京都 中央信用金庫	 京都外国語大学 Kyoto University of Foreign Studies
 日東薬品工業株式会社 NITTO PHARMACEUTICAL INDUSTRIES, LTD	 nichicon
 HORIBA Explore the future	 ASIA center JAPAN FUNDATION
 ACT ACT COMMUNITY TRUST	 sojitz
公益財団法人 三菱UFJ国際財団	

＜その他の協賛団体＞

株式会社井筒八ツ橋本舗、株式会社京織（京都 さがの館）、株式会社土井志ば漬本舗、よーじやグループ、異能工房、オムロンヘルスケア株式会社、株式会社如月社（京都シネマ）

＜会員・賛助会員＞

青山和典、浅野令子、石塚実、岩田晋一、大口達夫、大野恭介、岡村充泰、黒川清、河野登夫、酒井朋久、澤田有紀、下村委津子、首藤晴美、鈴木三朗、谷孝大、角田隆太郎、西岡正子、橋本徳子、濱野康子、程近智、真庭功、井谷千英、エリックブレイ、木内依子、木村千佳子、佐竹宏枝、杉山公律、津崎桂子、中澤弘、中塚祐起、中西礼皇、西田喜久夫、原田利枝、平田三樹子、福田貴子、堀田芳子、松田稔樹、水谷修、村上富美、森義晴、山崎真嗣、吉田真人、和田多司子

＜ボランティアスタッフの皆様＞

首藤晴美、土井善子、阪内悠一、松田直子、一本京佑、太田孝志、黒川莉奈、古賀篤、小森茉耶、重村瑞穂、田辺直子、釣巻洋子、手島昭、那須達也、福田貴子、藤原未来、松森藍子、三野龍生、宮脇裕、宿利原拓也、山口裕子、河合博子、藤井清澄、東園絵、吉川正晃、原康子、柴田勉、Eric Bray、Gordon McVie、鶴飼宏成、角田隆太郎、河上伸之輔、大野歩、吉田惇貴、吉田華奈、北川蒼太、西尾穂乃花